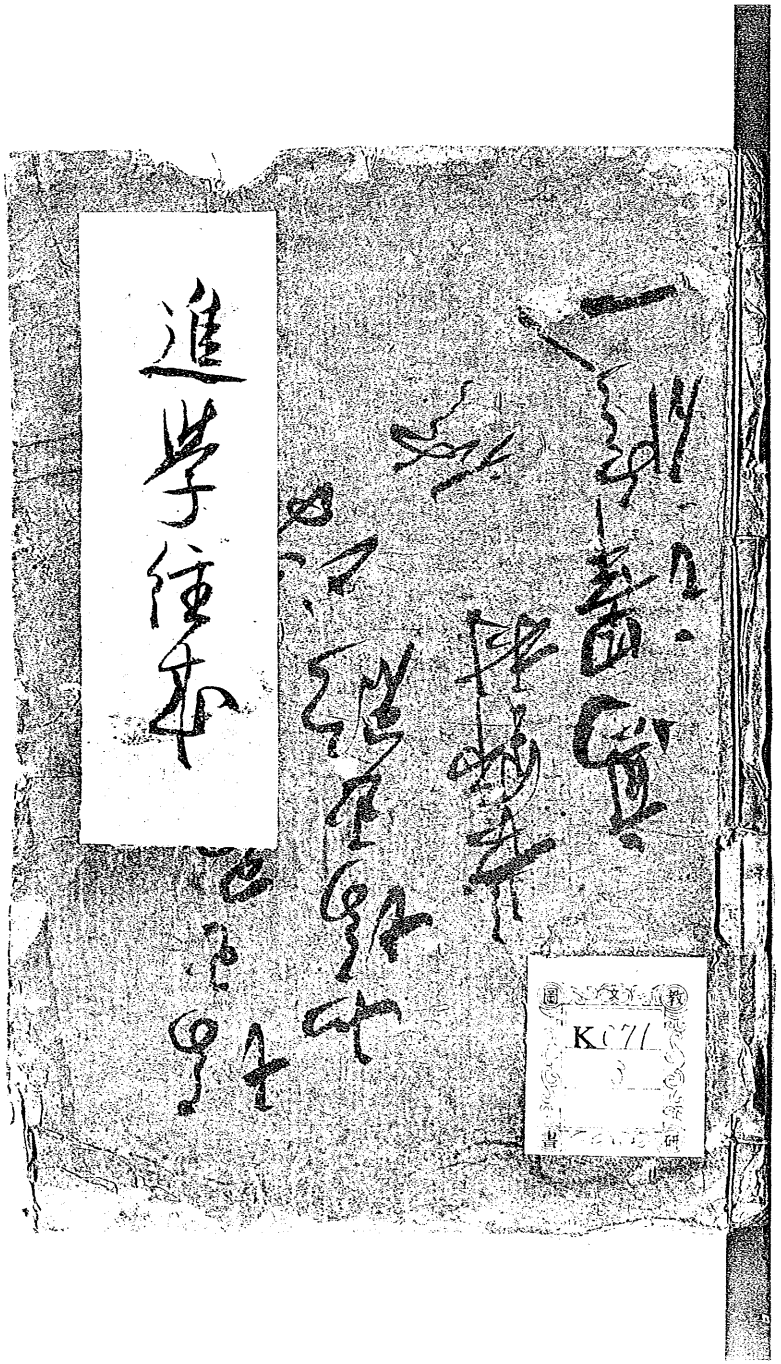

A0
37

9104

聖賢之異意

凡田不耕倉李下不整冠と云
る詩の心人の心
なり聖人の心
温潤と和して
玉のごとし
学ぶ者は
本和漢其教へ
を

進学性業

凡人生まれて
しく小学より
大学に業ぶ
本末をしらず
人の
の
の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

司馬相如傳

蜀に田田父母其の子を養はず教ざるは是の罪なり

蜀に田田父母其の子を養はず教ざるは是の罪なり

蜀に田田父母其の子を養はず教ざるは是の罪なり

百首格の小ち
山吹
格ぐしら矢小
出ぬんこの歌
いでぬ自へ
ゆまぶ花乃れ

伯夷叔齊傳

伯夷ハ兄叔齊モ
共ニ父孤竹の
君老て死セんと
せしに伯夷思れ
ケル叔齊ハ
代を譲ベシと

を妻せずまゝ好り是
ゆへ人ゝ武王ハ
必ず賢ましきと知い
ながら勢に
義兵を挙て
殺ス

言代きこ久ぐ
叔齊ハ
うりて兄伯夷
代を絶
ん
伯夷ハ
叔齊ハ
代を
ても父の命に
山に
こ
平ぶ
叔齊
ん
陽山ぶ

庶人の子も卿と
なり賢ぶ
公卿も庶人
と成
ぬ
又王莽公
と
僭
と
波費

伯夷叔齊孤竹君の子なり父の命により叔齊を立てんとす父死して叔齊伯夷に位を譲りて国を出ぬ叔齊伯夷に位を譲りて国を出ぬ

世に書は漢の信

義利の書は賢人

乃ち書は君子の智

賊の書は

と結ぶ

武王紂を討ちて天下を平らげ武王紂を討ちて天下を平らげ紂王悪逆兄を殺し父を害し国を亡ぼす人民これを怨む

中に御ずゝ見
忠孝ふかく文
武さうとく武
用ひどすべき出
立の人伯夷の武
勇ぶすぐれたん
とに果たしを
見て孝義也とて
官せんとも太公
ゆるしなくひく
うを義人なり
殺すことなかれ
いとのぶ沙人て
死成のごとして帰

るとの小書ふらりく
学く思ひ入書成
ゆゑ賢し賢者ハ
書を困く利あり
只書く読で業成

王と也天下方
家成治べし六
伯夷成石知さん
と勅仕立れた
人貢湯山の
業を七業とて
びすゆとと周
の業成てハ
せびつひのく
今もしびを形
て命をたもぐ
世貢湯山ハ周の

人数書を読ぐ
湯ろ書中成見ぐ
金と変て書を買
て読書を読ぐ
乎成買ハ易し好

地よわ〻と云ふ
の地〻に生ず
まこびを五六尺
とれりら周の嚴
ありそれを食へ
く周の墓をと
食しとつ〻
ふそひりと皆
れどそれもと
死後ありて絶
にてつびを食
すして七日ふ飢
そ死しうるを
う秋で冊事を

書八乗と遂ぐ
好書を真必敗
かく讀書の人
勧とは必ず無ふ
化と陽の人と

加胃侍郎前陽山倒成年也始應無人院姓名名質名八つ

昌黎韓湘傳

昌黎韓退之の吹唐文あり人力を

真宗皇帝四家
と帝の家人とかだ
度四を賞ふ紙
用ぐし書中
あのつ〻ふ稿

呂秋の杖と韓湘
とゝ人れ〻のゆゑ
れ〻文字とゝさ
しび給ふ
しんぞうゝび只
道士の術とこの
り呂秋あるた
韓湘ゆひりゝ
乃仁義のおもん
ゆゑひとすの業
ちゝれべゝび海が
ゆゝむと教訓
すでをゝり〻れ
韓湘義くゝく

業あり居と妻とん
ばゝ堂ゝ祭する
事を用ぶゝ
中自ゝ貴ゝ
なり門出ゝ人

奉弔ひ天地を
為を造化工
と凍のり
と呂秋ゝく
今すからゝ
のくゝ
や韓湘を
ゝ
ける猫
つゝひれわゝの
けゝゝ
牡丹の花
一枝ありゝれゝ
ゝ花の中に全

の使ゝ義事を
恨ゝ秋書
中車馬ゝ
様ゝゝ妻を
殺ゝ呂様ゝ

ことわざに
世の事なり
世に事なり女の色
恋いとぶ〳〵男
見て色を見て恋
とのことばに従動く

楊貴妃黄雀說

楊家とゝろしく人
九重のゝ花法
ふゝの子ゝろふま
ゆきくのそゝ
れくゝゝの美
雀鼠家を
て樹のゝ小雀く
死そん云ゝれを
蛾ゝまわつて
そゝ云ゝせゝそゝ
楊家ふ夜のゝ
わりひとりゝ

巾箱のうちに蔵して唯其名をのみ
あつて其ひろめ
面倍用しつふくろう
小紙雀毛筆物の
しるべ初宝これを
放ちて衣の裏
に黄ろ紙を
ふくに童子まり
初宝まのく一礼
をなしていく我
八西主毎仕者也
若ちさけのりく
ちぶ孫をとす

なし又白樂天白
田のしどもを耕ずまバ
金屋虚しを屋
を求めどもに業月
をしるに孫遠する

こと一紙雀子れに
物のしるべ仕れを
てうりもとりて
白環罪殺とあ
こ若の孫とし
くに白のしあ
位をこ公家のが
らんもに公儀ろ
てうくんて殺
こまれ楊宮を後
ちつれ者くに人り
書世ちとりくこ
くちのこれ公表

時に禮に我味ひ
惟耕ざるに数ざる
ものこれ見すれ
ちら父兄ち遊ぶれ
又韓退こ田木の

王莽より奪られ
光武帝の後人
王莽とかの
光武皇帝
以て漢の世
光武帝と
楊宣と特ふかせ
楊宣の
安帝の太尉
楊震と云
極帝の太尉と
東漢の
靈帝の
太尉
のち魏の文帝
優た尉と
震よ
世太尉の徳行
楊震一の
愛

魏の時の人
通人輪人
人の
腹
詩書

敵があれの蛇を
うつてこれ拾ひの
洗ものの瓜蛾ふ
うあ番ものの
皆仁道ふ
して文孫長久
のりんうり世
人ゆ義恩
仁孝とまりれ
きのふして

前漢蘇武傳

蘇武は前漢の
武帝より匈奴へ

匈奴へ使ひして蘇武
を討ものゆ
てつかさる匈奴
我ひ使ひして
蘇武をとらへ人

蘇武とる事四度
然ども強ひ
十二年の間
稍お長ども頭角
沈く乗法と

[illegible]

を[illegible]

[illegible]

成すもの一人[illegible]

学ぶ[illegible]

学ぶざれば備[illegible]

[illegible]

学ぶ人[illegible]

大府より[illegible]

の中[illegible]

学ぶ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

106

寛政六年甲寅九月吉辰
書林 星運堂 東叡山下竹町 花屋久治郎發行